

大学からのお知らせ

平成19年度卒論・修論テーマを募集

地域の企業・団体などから研究ニーズを募集し、学生が卒論（又は修論）テーマとして研究します。

■募集分野■

【工学部】

◆機械システム工学科

〈テーマ例〉鉛フリーはんだの疲労強度に関する研究

◆知能デザイン工学科

〈テーマ例〉産業用ロボットを用いた新加工技術の研究

◆情報システム工学科

〈テーマ例〉スイッチング電源の

デジタル制御に関する研究

※生物工学科は、平成21年度から募集します。

【大学院/工学研究科/（博士前期課程）】

◆機械システム工学専攻

〈テーマ例〉トレードオフを考慮した

機械部品の最適設計

◆知能デザイン工学専攻

〈テーマ例〉目を使った非接触型入力システムの研究

◆情報システム工学専攻

〈テーマ例〉三次元空間実現法の研究

◆生物工学専攻

〈テーマ例〉有用物質の効率的合成法の開発や

機能性探索

【短期大学部】

◆環境システム工学科

〈テーマ例〉有害物質含有土壌の処理技術に関する研究

◆専攻科環境システム工学専攻

〈テーマ例〉環境配慮型水路の

計画設計手法に関する研究

応募期間：平成19年1月31日（水）まで

申込書は、大学HPからダウンロードできます。

大学院 研究生

「論文準修士コース」募集

平成18年度から、新たな社会人受け入れ制度として大学院研究生「論文準修士コース」を開設しました。企業等の若手技術者が、働きながら大学で企業ニーズに基づく研究とMOT（技術経営）等の専門的知識を修得することにより、企業の研究と人材育成をサポートします。

■内容■

研究と科目履修を組み合わせた

1年間の教育研究コース

■入学資格■

大学を卒業した方又はこれと同等の学力があると認められた方で、入学時現在で1年以上の専門的な実務経験を有する方

■修学期間■

平成19年4月から1年間

富山県立大学フォーラム2007

文部科学省の「平成16,18年度現代的教育ニーズ取組み支援プログラム（現代GP）」「平成17年度特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に選定された富山県立大学の3つの取組みをご紹介します。

■日時■

平成19年2月22日（木）13:30~18:45

■場所■

名鉄トヤマホテル

■内容■

I：全体会

・H18現代GP取組概要説明

・講演会

・フォーラムディスカッション

II：分科会I

・H16現代GP成果発表

III：分科会II

・特別講演

・H17特色GP成果発表

IV：ポスター発表

V：情報交換会

富山県立大学既卒Uターン希望者への就職情報提供支援スタート

富山県立大学では、本学を卒業して県外に就職しているものが、家庭の諸事情により県内企業への再就職を希望する者（Uターン者）を本学キャリアセンターで登録し、情報提供を行います。こうした本学既卒Uターン者の求人企業として、キャリアセンターに登録を希望される会員におかれましては、富山県立大学研究協力会HPに『申込フォーム』を掲載しておりますので、ご利用ください。

■お問い合わせ■

富山県立大学 事務局（キャリアセンター）

TEL：0766-56-7500（内線122）

編集・発行

富山県立大学研究協力会 （富山県立大学地域連携センター内）

〒939-0398 富山県射水市黒河5180

TEL 0766-56-0604 FAX 0766-56-0391

E-mail renkei@pu-toyama.ac.jp

HP <http://www.pu-toyama.ac.jp/kyouryokukai/>

Techno Times

テクノタイムス

社会人のための専門教育 論文準修士コース

MOT(技術経営)講義に参加して

インテック・ウェブ・アンド・ゲノム・インフォマティクス株式会社

主任 川添 恭平氏



今年度から、産学連携の一環として社会人向けの論文準修士コースが開設されました。そこで、第1期生となった6名の社会人受講生のうちお1人に、これまでの経過と今後の抱負についてお伺いしました。

■実際に受講してみても■

実際に受講してみても、経営に係わる多くの方々の接点を持てたことが最も大きな価値であったと思います。経営者が「どういうことを考えているのか。」に触れることにより、これまで「技術の確立」をゴールとしていた研究開発に、企画段階からゴールの設定に「ビジネスの視点」を持つ必要があるという考えが生まれました。

研究開発というと新技術に目が行きがちで、コスト意識の薄い開発も多くありました。MOT講義を受講し、今後の研究開発には「この技術にはどれだけの市場があり、研究開発にはこのくらいコストがかかるが、開発できれば会社にこれだけ利益貢献する。」といった『経営貢献への約束』が必要であると考えようになりました。企業の技術者には経営を意識することも必要なのだと思います。

また、一般講義や研究室に入れて頂くことで、若い学生たちとも交流することができ、学生との視点の差を実感する場を持ってました。これは、私たち企業人が普段意識しにくい、



「お客様が私たちの会社をどう捉えているか。」といった情報に触れられる場であることにも気づくことができました。

■今後の展望■

今後は、残っている講義を全て受講することも目標ですが、12月からは論文作成も始まります。これも1月中旬に提出し、このような機会を与えてくれた会社への責任を果たしたいと思います。また、今回の講義を受講していない社内の若いメンバーにも、MOTのような考え方の重要性を伝え、社内の活性化を図りたいと考えております。

■MOT講義に一言■

企業人が大学の講義に参加する際に、最も難しいのが「時間のやりくり」だと思います。やはり企業人は業務が最優先であるため、1週間に1回・2年で修士を取得するというスケジュールは厳しい場合もあると思います。もう少し選択性のあるスケジュールで学位を取得できればもっと参加しやすくなるのではないのでしょうか。また、MOT講義参加による企業へのメリットをアピールすることも重要だと思います。